

1 行政評価(施策評価)の趣旨

1 施策評価の位置づけ

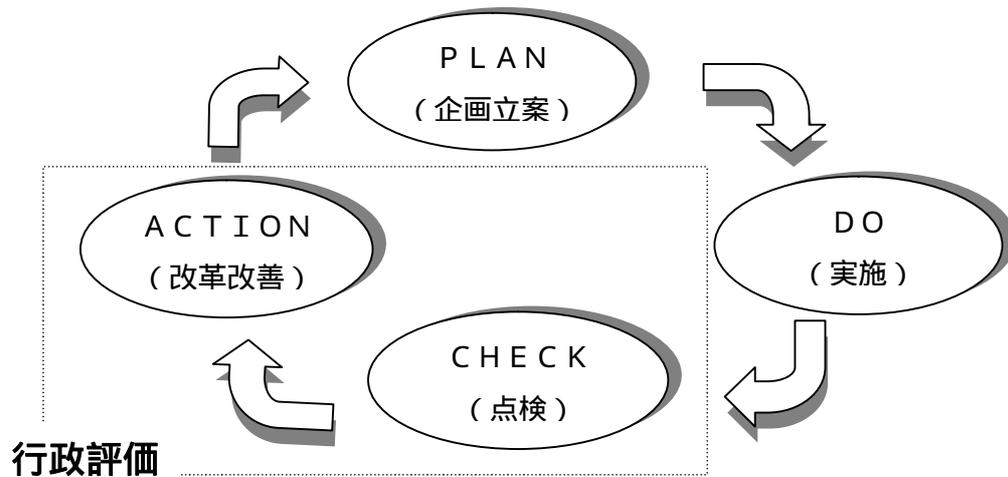
名古屋市では、効果的・効率的な市政運営をめざして、平成13年度から事務事業を対象とした行政評価（事務事業評価）に取り組み、今年で5年目を迎えました。

平成14年度には他の政令指定都市に先駆けて外部評価も導入し、事務事業の見直しをはじめ、職員の意識改革、予算の縮減などに成果をあげています。

行政評価とは、行政が行う施策や事業等について、「市民にとっての効果は何か」「当初期待したとおりの成果はあがっているか」という視点などから客観的に評価・検証を行い、より効果的・効率的な市政運営、市民の目線に立った、わかりやすい市政運営をめざすものです。

また、行政評価は、Plan - Do - Check - Action というマネジメントサイクルのCheck - Action に相当するもので、実施した施策や事業等を客観的に評価し、その結果を次の事業展開等に活かしていく行政改革の手段の一つとも考えられます。

[図表 1 - 1] マネジメントサイクルにおける行政評価



事務事業は施策を実現するための手段です。これまで築いてきた事務事業評価の実績を踏まえ、さらに効果的・効率的な市政運営をめざすため、各種の事務事業で構成される施策に焦点を当て、新たな行政評価（施策評価）に取り組むこととしました。

施策は、名古屋市の長期総合計画である「名古屋新世紀計画2010」に掲げる「誇りと愛着の持てるまち・名古屋」を実現するために、行政と市民がともに進めていく取り組みです。行政サービスを受ける市民側の視線から市政を体系化したものと捉えることもでき、「名古屋新世紀計画2010第2次実施計画」では、79施策を掲載しています。

施策評価では、この79施策を対象に施策の実績を評価し、個々の事務事業レベルにとどまらない、市政全体の状況を明らかにすることをめざしました。

2 施策評価の目的

(1) 目的

市民に対する説明責任（アカウンタビリティ）の向上

施策の実績を評価し、施策の状態を市民にわかりやすい形で公表することにより、説明責任（アカウンタビリティ）の向上を図ります。

効率的で質の高い施策の実現

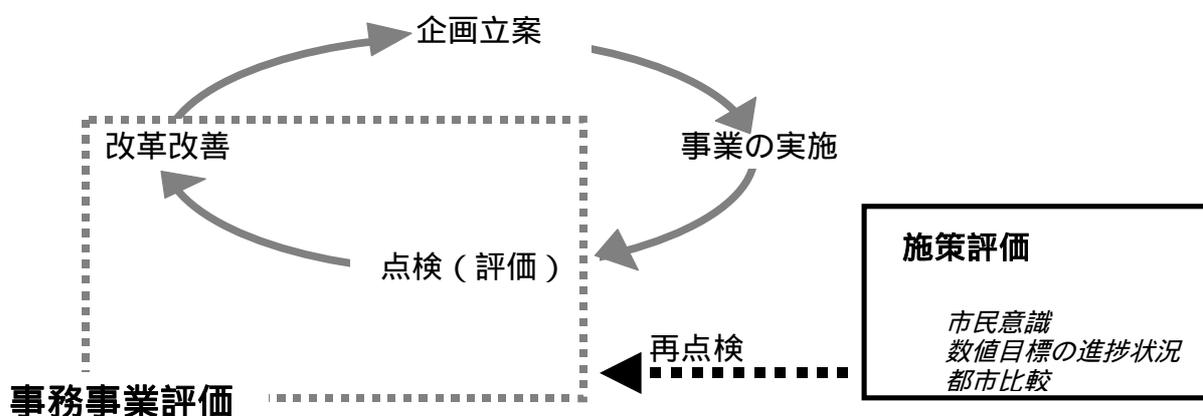
- ・ 施策レベルの現状認識の深化、課題の共有化

計画を着実に進めていくためには、施策はどれも等しく重要なものとして力を入れていく必要がありますが、できるだけ市民の目線に立ち、これまでの実績を、施策のレベルから評価することにより、市政の現状についての認識を深め、行政課題の共有化を図るとともに、今後の政策判断、計画の策定などに役立てていきます。

- ・ 事務事業の改革改善

施策評価の結果をもとに、施策を構成する事務事業について、効果的な事業展開が図られているかなどの再点検を行うとともに、事務事業評価の基準の改善を図ることにより、一層の市民満足度の向上や効果的・効率的な事務事業の展開を進めます。

[図表 1 -2] 施策評価と事務事業評価との連携



職員の意識改革の推進

施策評価を取り入れた一連のマネジメントサイクルの実施を通して、職員一人ひとりの意識改革を進めます。

(2) 行財政システムとの関わり

名古屋市の施策評価は、市政の状況を明らかにすることなどを目的としたものであり、評価の結果が、直ちに計画や予算、組織・定員などに反映されるものではありません。

そのプロセスには、市政を取り巻く課題や潮流などを見通した、総合的な政策判断が必要となります。

このため、施策評価を組み入れた行財政システムの整備には、評価方法の充実、施策の選択と集中を図るために判断する基準や体制づくり、予算編成や組織・定員をはじめとする現行の行財政システムとの整合性の確保などが必要です。

3 施策評価の方法

施策の実績をわかりやすく捉え、市政への理解を深めることができるよう、まずは、これまでの施策は市民にとって満足のいくものであったのか、名古屋市が自ら立てた目標の進捗状況はどうなっているのかなどについて、明らかにしておくことが必要となります。

また、名古屋市の行政サービスの状況などを他都市と比較し、本市がどのような位置づけにあるのかを明らかにしておくことも、今後の施策展開を考えていくうえで有用なものと考えられます。

そこで、施策評価では、次の3つの視点から施策を評価することとしました。

(1) 市民意識

施策ごとに、施策の現状について市民がどのように感じているかをお尋ねする施策満足度調査（市民満足度調査）を実施し、満足度「市はしっかり取り組んでいると思うか」、重要度「市政にとってどのくらい重要だと思うか」のそれぞれについて5段階での回答をいただきました。この調査結果をもとに、満足度、重要度を加重平均値により指数化し、「比較的高い」「まあまあ」「比較的低い」の3段階で評価しました。

また、施策の特徴をより理解してもらうため、施策別の集計結果を部門別にまとめなおし、年齢別、男女別による分析も行いました。

(2) 数値目標の進捗状況

名古屋新世紀計画2010第2次実施計画では、個々の事業を行うことにより達成をめざす施策の目標を、数値目標として登載しています。これらの数値目標について、平成16年度の実績値がどのような進捗状況にあるのかを、「順調」「やや遅れ」「遅れ」の3段階で評価しました。

(3) 都市比較

既存の各種統計資料に基づき、市勢状況や行政サービスの状況を示す各種の指標をまとめ、他の政令指定都市と比較することにより、それぞれの指標における名古屋市の位置づけが、大都市のなかでどのような状況にあるのかについて、主だった特徴を分析しました。